親子クイズ 335

◪締め切り　平成12年４月14日㈮必着
◪あて先
〒783-8501　南国市大埇甲２３０１
南国市企画課親子クイズ係
◪賞　品　正解者の中から抽選で、５人に図書券を進呈
◎第334回親子クイズの答えは、
ボウサイ（防災）でした。

第334回当選者　　応募総数　79通

イ	グ	サ
チ	■	クヨ
ゴウ	■	ボ
■	ク	ロウ

334回解答

高橋　生姫さん（大埇乙）
村田かおりさん（篠　原）
徳平みゆきさん（小　龍）
門田　由加さん（大埇甲）
沼　廣美さん（稲　生）

Q 毎年恒例の行事です。
ＡＢＣ　３月１日から９日まで。
シジミとかフナとか取れますよ！

タテ①うたを彫りこんだ碑　○○
②Young・Men's・Christian・Association
○○○○シーエー
③君の○○○は１万ボルト
④体にピッタリ○○○スカート
⑥針と○○

ヨコ①稲生宮にある可童の霊を祭ってある神社　○○○神社
③縁を切ること　○○をやる
④エビで○○を釣る
⑥人の住む建物
⑦外海の波を防ぎ、船を安全に止める所

市民からのお便り

しばらくぶりに顔の中の体操ができました。

みんなの広場

親子クイズは、広報委員が南国市に関連することを毎月順番に考えています。
親子クイズの問題を募集しますので、ふるってご応募ください。

投稿記事

日章スカッシュバレーチーム 留学生を訪ねて

私たち日章スカッシュバレーチーム（島内幹夫会長ほか25人）は毎週木曜日、日章小学校体育館で高知高専留学生たち（現在マレーシア２人・インドネシア１人の男女３人）と練習に汗を流しスカッシュバレーを通して国際交流を深め、併せて日本の文化や歴史なども紹介しています。

平成２年から当時高知高専４年生のマレーシア留学生ザイヌデーンさんが、チームの一員として練習に参加したのが最初の留学生たちとの出会いでした。

その後、彼の後輩が加わり、また彼たちが卒業すると新入生が新たにチームの一員として参加するようになってだんだん地区メンバーと彼たちの大きな輪が広がり、今では家庭的なつき合いもできて現在10年目に至っています。

この間、12人の卒業生がエンジニアとしてマレーシア（日本合弁会社）、あるいは日本で活躍していると聞いて心楽しいものを感じていました。

ちょうどそのようなおり、ＹＫ２（ミレニアム）が話題に上ることが多くなり「カウントダウンを外国で…」そうだ、以前交流を深めた留学生たちの活躍ぶりをこの目で見て、またスカッシュバレーを彼たちの国で紹介・普及させたい」という思いが高まり、このたびの親善旅行が実現しました。

12月29日、高知空港を出発して、30日マレーシア着。空港でシャハルルさん一家（奥様、子ども３人）、ナスルンさん（マレーシアミノルタ）、ロスニザム君（高知高専留学生）ほかと懐かしの再会を果し、その足でマレーシア番、屋台広場に行き、サティー料理（焼肉を串刺しにしたもの）をごちそうになりました。

翌日、恩師の高知高専竹内先生含む４人が、クアラルンプールから南西30㎞のクランにあるシャハルルさんの勤務するマレーシア三協精機（本社長野県）を訪問し、岡山滋社長以下日本人スタッフの方々とシャハルルさんを交えて面談する機会も得て、会社概要・留学生への期待・シャハルルさんの活躍を伺うことができました。

シャハルルさんと
マレーシア三協精機
の皆さんと記念撮影

留学生は幹部社員として待遇されており、シャハルルさんは品質管理部門のアシスタントマネジャーを努め、上司の信頼が非常に厚いことを感じ大変うれしく思いました。

工場見学の後、35度の炎天下、持参したボールで彼たちとスカッシュバレーを楽しみ、彼の今後の活躍とまたの再会を約束して会社を後にしました（ボールを寄贈し、今後マレーシアでのスカッシュバレーの普及を期待）。

最後に、留学生から南国市やスカッシュバレー大会や成人式での思い出が話題となり市民の皆様に「ぜひよろしくお伝えください」とのことでした。

（訪問者：日章スカッシュバレーチーム　島内幹夫、足立圭三、石川征史、竹内正明）

お便りへの回答

一昨年の時には、生きたここちがしませんでした。うちは吾郷山の近くなので山崩れが心配です。普段からの備えが大事ですネ。

第12回南国市俳句大会入選句

【市長賞】
川海苔を干して終生怒り肩　川田玉恵

【議長賞】
弱の手の中で眠りし木の実独楽　富士田三郎
大根で大根の土落しけり　橋本昭和

【教育長賞】
携帯の電波届かず枯木灯　竹内とし子
0時発夜汽車は青い龍になる　井上育子

【県俳連会長賞】
枯蓮に水の透明始まりぬ　高橋以登
母の生家はいつも水鳴る初明かり　森武司
鮎を焼く祖父が主役の解禁日　美崎明
生まれた村の民話ひらけば雪となる　山中淳佑

【入賞】
風音を素通りさせて枯木立　林廣裕
カクテルに寒星ひとつ入れようか　内田嘉彦
門松といふ一枚の紙を貼る　竹村あきを
「前の日まで畑におった」寒の鼻　山本房
十二月八日を知らぬ長い胸　大畠新草
くろがねの道具は古りぬ鍬始め　中村まさ秋
日向ぼこ海がそこまで来て光る　津田明喜子
棚田から棚田へ嫁ぐ梅日和　藤原悦子
看取る日の余白にひらく桃の花　藤本清子

【特別選者賞】
青年歯医ロ笛で来る秋の春　森洋彦（森本青三呂選）

病院の監視カメラに咳一つ　長野光紫（大畠新草選）
孫の手の中で眠りし木の実独楽　富士田三郎（岩城鹿水選）
正月の猫と留守番の昼で座す　森早恵子（森武司選）
ぼうぼうと祇は燃えて花の下　津田明喜子（和田幸郎選）
見切り主夫で立ち安値続きをり　美崎明（松木巨郎選）

【準特選句】
生まれた村の民話ひらけば雪となる　山中淳佑（北村泰章選）

「三好豊治さんの命を守る会」からのお礼状

三好豊治さん

昨年11月号広報なんこくで、難病の羅病闘病三好豊治さんの心臓移植費の募金をお願いをしましたが、このたび手術も無事に成功し、「三好豊治さんの命を守る会」からお礼状が届きました。

これによると、三好さんは現在病院近くの施設で治療を続けていますが、術後の第一声で「先々が考えられるようになりました」と命を得た万感の思いと支援していただいた多数の方々への深甚な感謝の気持ちを述べられたそうです。

今後も治療は続けられますが、心臓移植という大きな山を乗り越えたことにより、ひとまずお礼の気持ちを伝えたいと思います。

ご支援ありがとうございました。

市民からのお便り

今回は子どもがよく解けました。